

下肢閉塞性動脈硬化症(ASO) 診断・治療のご案内

血管外科は「救急・手術棟」にて診療中

閉塞性動脈硬化症(ASO)とは

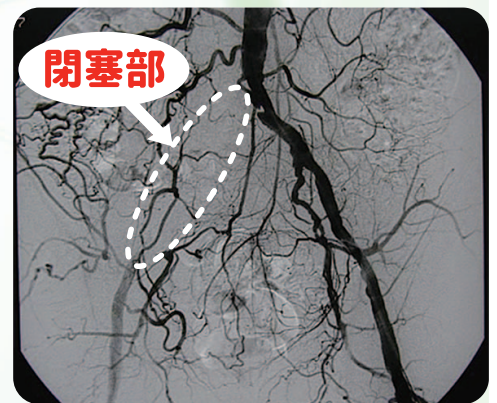
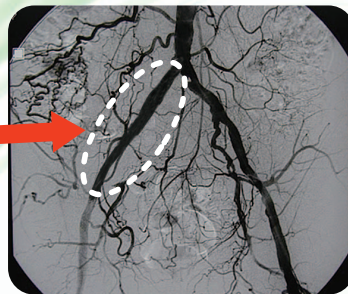
動脈硬化(粥状硬化)により主に脂肪からなる粥状物質が動脈壁内膜に沈着し、動脈の内腔が狭くなり循環障害をきたした状態です。

ASOは全身の動脈硬化性血管病変の一部分症で、人口の高齢化や食生活の欧米化に伴い、動脈硬化に起因するASOが増加しています。

重症度	具体的な症状
軽度 I 度	無症状、手足のしびれ感、冷感
II 度	間欠性跛行(歩行中にふくらはぎが痛くなり歩けなくなるが、しばらく休むと回復する。)
III 度	安静時疼痛(じっとしていても手足が痛く、うずく。夜も痛くてよく眠れない。)
重度 IV 度	潰瘍、壊死(手足に潰瘍や、黒い壊死部ができる。)

閉塞性動脈硬化症の血管造影所見 (右腸骨動脈閉塞)

血管が閉塞すると
白い点線部分が写らない



診断法

- ① 下肢動脈の触診
- ② 血圧脈波検査(ABI測定)などの簡単な検査で、閉塞性動脈硬化症の程度を判断できます。
手術治療などが必要と思われる時は、血管造影検査で狭窄や閉塞部位を正確に調べます。

治療法

治療は日常生活の改善(禁煙、適度の運動とバランスの良い食事)と軽度の時は運動療法と薬物療法が中心となります。しかし、重症化すると手術(バイパスやステント)治療が必要となることがあります。

